

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【概況】

●11日、通商摩擦を理由に、米エネルギー情報局(EIA)は10日公表の短期エネルギー見通しで、今年と来年の世界の石油需要の伸び予測を下方修正。また、11日午前には米消費者景況感の一段の悪化も確認された。しかし、今月2日の米相互関税の発表以降、金融市場では不確実性リスクを織り込む動きが急ピッチで進行。今週発表された3月の米物価指標が足元のインフレ沈静化を示したことも投資家の警戒感を和らげ、午後にかけてまとまった買いが入り相場は61.5ドルへ反発した。

●14日、米トランプ政権は11日夜、事業者向けの通知で、スマートフォンやパソコン、半導体製造装置などを相互関税の対象から外すことを明らかにした。13日にはトランプ大統領が、スマホなどは除外ではなく別の関税措置を課すと述べるなど不透明感が残るものの、米中の貿易戦争激化をめぐる過度の懸念がひとまず和らぎ、この日の米株式相場は上昇。リスク投資意欲が高まり原油にも買いが入り相場は61.53ドルへ小幅続伸した。

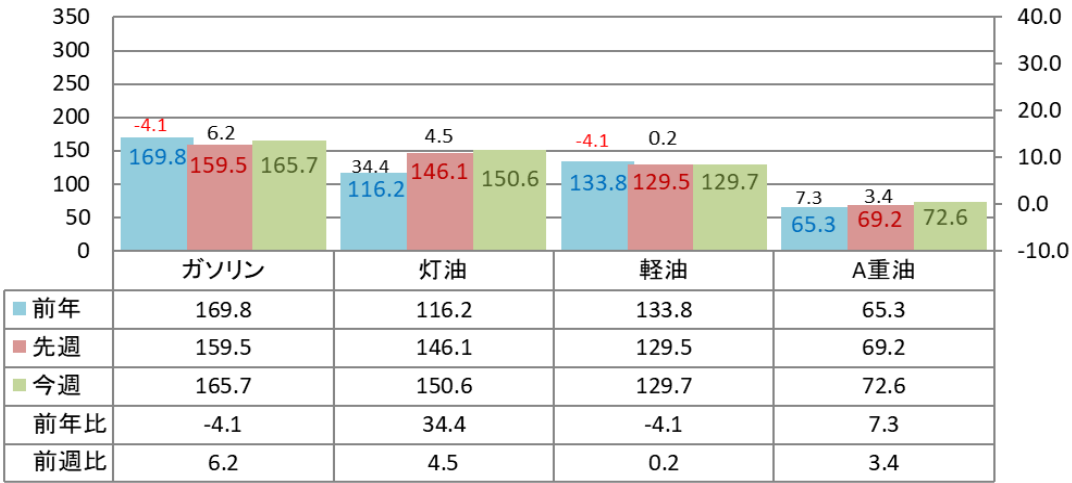
●15日、国際エネルギー機関(IEA)は15日、2025年の世界石油需要の伸び見通しを日量73万バレルと、従来予想(同103万バレル)から下方修正した。26年については69万バレルにとどまると予想。石油輸出国機構(OPEC)は前日公表した月報で、25年の世界の石油需要予想を前年比で日量130万バレル増(前月予想は同145万バレル増)と、昨年12月以来、4カ月ぶりに引き下げていた。IEA、OPECともに相互関税を巡り米中の貿易摩擦激化や米国が本格的なリセッション(景気後退)入りするなどの可能性を想定したという。これを受けて、原油相場は61.33ドルへ反落した。

●16日、米財務省は16日、イラン産原油を購入する中国の独立系製油所やイラン産原油の中国への供給に関与する複数の企業や船舶に追加制裁を科すと発表した。供給混乱への警戒感につながり、原油買いが優勢となり相場は62.47ドルへ反発した。イラン核問題を巡り米イラン間で高官協議が行われる中、イランのアラグチ外相は16日、「(イランの)ウラン濃縮活動を交渉対象にはできない」と発言。19日再開予定の次回協議も注視されている。

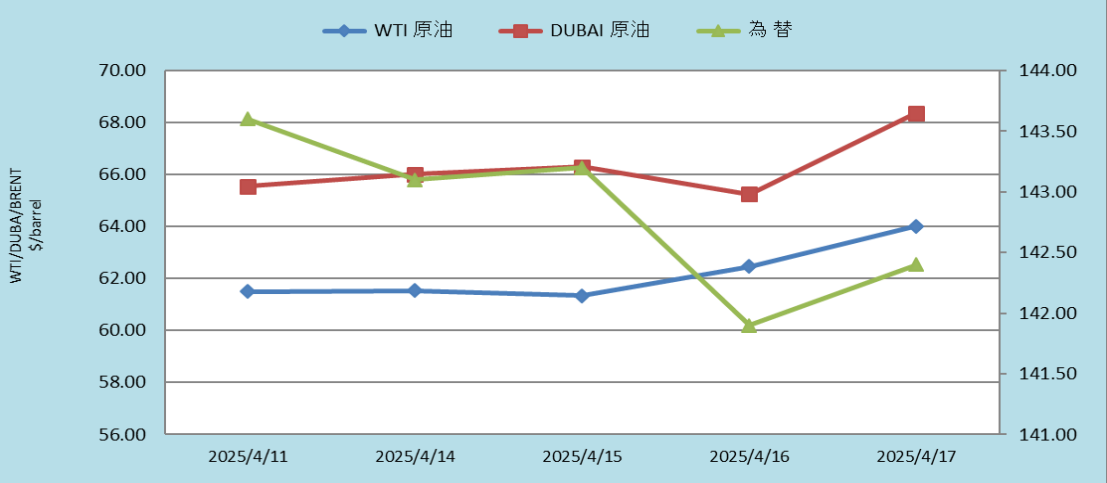
●17日、米政権は16日、イラン産原油を購入したとして、中国に拠点を置く製油所の運営企業を制裁対象に指定したと発表。同製油所はイラン産原油の主要な輸出先の一つで、核開発問題を巡り対立する同国への圧力強化が狙いとみられる。今後、制裁対象が港湾ターミナルや地方銀行などに拡大する可能性を警戒し、この日も堅調地合いが継続し相場は64.68ドルへ続伸した。

4月18日 16:00現在 WTI原油 64.45ドル 為替 1ドル 143.46円

国内石油製品在庫 4月12日時点



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



|      | 次回元売変動予測 |           |
|------|----------|-----------|
|      | 4/24～    | 元売変動予測    |
| ガソリン | ➡        | -0.1～+0.4 |
| 灯油   | ➡        | -0.1～+0.4 |
| 軽油   | ➡        | -0.1～+0.4 |
| A重油  | ➡        | -0.1～+0.4 |
| LSA  | ➡        | -0.1～+0.4 |

※原油コスト「+1.5円～+2.0円」  
※激変緩和補助金「1.6円」 前週比-1.6円  
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-8.5円」、補助金は、「±0.0円・0%」、都合「-4.1円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの14日時点の小売価格平均は186.5円となっている。

《4月24日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+1.5円～+2.0円」、激変緩和補助金は「-1.6円・0%」の見込みで、都合「-0.1円～+0.4円」の改定予測となっている。

【次世代エネルギー】 < パナソニックとNTT系、大阪万博会場内に水素供給網 >

パナソニックとNTTのエネルギー子会社であるNTTアノードエナジー(東京・港)は7日、大阪・関西万博の会場内に再生可能エネルギー由来の水素の供給網を実装したと発表した。NTTパビリオンで太陽光発電と水電解装置で作った水素をパナソニック製電池の燃料にして発電し、夜間のライトアップなどに活用する。水素の生成・運搬・使用までを万博会場内で実現する。

NTTパビリオンの屋上に設置した、薄くて曲げられるペロブスカイト太陽電池約100枚で発電し、水素を作る。パイプラインでパナソニックグループパビリオン近くに設置されたパナソニック製の純水素型燃料電池に供給される。

水素パイプラインは地中に埋められており、全長は約200メートル。安全対策として地中にセンサーを設置し、水素漏れがないかどうか随時モニタリングする。運ばれた水素と空気中の酸素を燃料として純水素型燃料電池で電気を作り、パナソニックグループパビリオンの夜間のライトアップに必要な電力全てを賄う。